

## 歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトの今後の展開について

### はじめに

平成 17 年 1 月、繁華街・歌舞伎町の課題解決に向け、官民が一体となり、総合的に取り組む「歌舞伎町ルネッサンス」がスタートした。この取り組みは、違法風俗店や客引きなどを取り締まる安全・安心対策や、まちの環境美化に取り組む「クリーン作戦プロジェクト」、歌舞伎町から新しい大衆文化を創造・発信し、賑わいづくりに取り組む「地域活性化プロジェクト」、社会インフラの整備により快適な都市空間の創造を目指す「まちづくりプロジェクト」、そして、歌舞伎町のまちを支える活動の担い手を誘致し、連携を図りながら共に活動していく「喜兵衛プロジェクト」の 4 つを柱にした繁華街におけるまちづくりである。そして、これら 4 つのプロジェクトによって、歌舞伎町の「怖い」「汚い」「風俗のまち」といったマイナスイメージや犯罪インフラをなくし、「明るく」「安心」「楽しい」等プラスイメージで溢れる健全な繁華街「エンターテインメントシティ・歌舞伎町」の実現を目指すものである。

本稿では、歌舞伎町ルネッサンスの「地域活性プロジェクト」による賑わいづくりにいて取り上げ、とりわけ、「来街者の回遊性の高いまちづくり」を推進することの意義とその効果、そして今後の展開について記述する。

## 1 繁華街・歌舞伎町の再生の必要性和歌舞伎町ルネッサンスについて

### 1. 1 「怖い」「汚い」「風俗のまち」歌舞伎町

赤いネオンの「歌舞伎町一番街ゲート」は、犯罪ドキュメント番組等の冒頭によく映し出される。歌舞伎町は、日本を代表する繁華街であり、飲食店や映画館をはじめ、ゲームセンター、カラオケ店、ライブハウスなどの娯楽施設が多く、こうした施設で楽しむ人が、日々このまちにやってくる。楽しいまちというイメージを持つ人もいるが、やはり、歌舞伎町は、「怖い」「汚い」「風俗のまち」といったマイナスイメージが強い。

こうしたイメージは、このまちで起こる様々な事件等により醸成される。歌舞

伎町には、多くの風俗店が立ち並び、路上にはそうした店を案内する客引きが屯している。そして、歌舞伎町では、テレビや新聞で報道されないような小さな事件も含め、毎日のように暴力事件等の犯罪が起こり、違法風俗店が摘発されている。また、自転車やバイクだけでなく飲食店の看板までもが、まち中に無造作に置かれ、ごみやタバコの吸い殻が当たり前のように捨てられている。こうした状況を、目の当たりにした人は、このまちに対してプラスのイメージを持たないであろう。特に、平成 20 年末に歌舞伎町のシンボルであった新宿コマ劇場や、その周辺にあった映画館が相次いで閉館し、大衆文化を提供する娯楽のまちというイメージが薄れてからは、こうしたイメージを強く持つようになった人も多いのではないだろうか。「娯楽のまち」、「楽しいまち」歌舞伎町は、「怖い」、「汚い」、「風俗のまち」歌舞伎町でもある。これが、このまちの素顔である。

## 1. 2 明星 56 ビル火災

2001 年 9 月 1 日午前 1 時頃、多くの人で賑わう新宿区歌舞伎町の「明星 56 ビル」から出火し、44 人もの尊い命が奪われた。地上 4 階、地下 2 階の雑居ビルで、キャバクラ、イメクラ、麻雀店、飲食店などが入居していた<sup>1</sup>。このビルは、人通りの多い歌舞伎町一番街ゲートからほど近いところにあり、当時は、土曜の終電前の時間帯ということもあって、ビルの前には野次馬の人だかりができたという。

すぐに消防隊が駆けつけたが、歌舞伎町一番街の道幅は狭く、人も多かったため、消火活動は困難を極めた。救急車 48 台、ポンプ・化学車 25 台、はしご車 4 台、救助車 6 台、指揮車 6 台、他車両 6 台など、東京中から隊員、車両が動員されたが、完全に火が消えたのは 6 時 44 分頃のことだった。火は「明星 56 ビル」の 3 階と 4 階の約 160 m<sup>2</sup>を全てを焼き尽くし、救助された 47 名のうち 44 名の尊い命を奪った。犠牲者は主に 3 階の麻雀店「一休」、4 階のキャバクラ「スーパールーズ」の客と従業員であり、彼らのほとんどは重度の火傷の跡もなく、一酸化炭素中毒によって死亡していたという<sup>2</sup>。

## 1. 3 歌舞伎町ルネッサンスの誕生

明星 56 火災ビルが発生した当時、歌舞伎町には、多くの風俗店が立ち並び、これを宣伝する蛍光色の立て看板が乱立、ガラガラに輝く派手なネオンがまちの景観を乱していた。公衆電話にはピンクチラシが貼られ、通りにはピンクチラシを持つ

---

<sup>1</sup> 「2001 年 9 月 1 日、新宿歌舞伎町ビル火災 44 人死亡」『防災システム研究所』  
<http://www.bo-sai.co.jp/sinjukukasai.htm>

<sup>2</sup> 「新宿ビル火災の教訓」『防災システム研究所』 <http://www.bo-sai.co.jp/sinjukukasai1.htm>

た迷惑な客引きが立ち並んでいた。また、ごみやタバコが平然と捨てられ、通りには無造作に止められたバイクや自転車、飲食店の看板があった。この当時の歌舞伎町は、完全に荒廃した繁華街であったといっても過言ではない。

しかし、こうした状況を行政、警察・消防などの行政機関、地元商店街振興組合が、静観していたわけではない。

歌舞伎町という巨大な繁華街が誕生したときから、区、地元、警察・消防などの関係行政機関は、歌舞伎町で生じる様々な問題に頭を悩まし、そして、対策を講じてきた。しかし、結局はイタチごっこの結末となっていた。これは現在でも同じである。

明星 56 ビル火災は、こうした状況の中で発生したこともあって、区、地元、関係行政機関はすぐに対策に取り組んだ。

新宿区は、平成 15 年に「新宿区民の安全・安心の推進に関する条例」を制定し、平成 16 年には、新宿区長を中心とする「歌舞伎町対策推進協議会」を設置し、防犯・防火を核とする歌舞伎町対策のための体制を作った。

また、警察は、新宿区、地元商店街振興組合とともに、まちの安全確保のために、平成 14 年 2 月、街頭防犯カメラを設置し、まち中での犯罪対策を強化した。<sup>3</sup>

地元歌舞伎町商店街振興組合は、平成 14 年に客引きやぼったくり等の抑止力となることを目指した「新宿歌舞伎町を、楽しく、安全で安心できるまちにするための宣言」を打ち出し、警視庁が設置した街頭防犯カメラに連動した「セキュリティネット」を構築した。<sup>4</sup>

また、この火災を契機に、平成 14 年 10 月に消防法が改正され、24 時間事前通告なしの立ち入り検査、目命令違反の罰金を大幅に引き上げることなどが定められた。<sup>5</sup>そして、東京消防庁は、平成 18 年 6 月に、地域の安全と安心に向けた査察執行体制の強化を目的に、新宿歌舞伎町防火安全対策本部を設置した。<sup>6</sup>

このように、44 名もの尊い命を奪った雑居ビル火災を契機に、新宿区、警察・消防等の関係行政機関、地元商店街振興組合はそれぞれ対策を強化しながらも、有機的に、強く連携を図るようになった。そして、平成 17 年 1 月 27 日、こうした、まちの安全・安心対策、地域活性化対策を官民が一体となり、より総合的・効果的に実施するための組織「歌舞伎町ルネッサンス推進協議会」が発足した。この協議会は、新宿区長を会長に、歌舞伎町商店街振興組合、地元町会や事業者、警察・消

---

<sup>3</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p123

<sup>4</sup> 同上

<sup>5</sup> 「消防法施行規則の一部を改正する政令概要」『消防庁』  
<http://www.fdma.go.jp/html/new/021018gaiyo.htm>

<sup>6</sup> 「歌舞伎町防火で対策本部 雑居ビルなど一斉検査」『47NEWS』  
<http://www.47news.jp/CN/200606/CN2006062201003905.html>

防・入国管理局などの関係行政機関、東京都、国の関係省庁、有識者によって構成され、歌舞伎町を「誰もが安心して楽しめるまちへと再生する」ことを目標に掲げる繁華街対策「歌舞伎町ルネッサンス」をスタートさせた。

## 1. 4 歌舞伎町ルネッサンスとは

平成 17 年 1 月 17 日、官民が一体となり、繁華街・歌舞伎町対策を、より総合的・効果的に取り組む組織として「歌舞伎町ルネッサンス推進協議会」が発足した。この組織は、「歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちへと再生」するための取り組み「歌舞伎町ルネッサンス」を推進し、「エンターテインメントシティ・歌舞伎町」の実現を目指している。

そして、この目標を実現するための活動の方向性を示す、4つのプロジェクトが打ち出された。

### ① クリーン作戦プロジェクト

目 的：犯罪インフラの除去（安全・安心対策）と環境美化

具体策：環境美化活動、違法広告対策、違法風俗店対策など

### ② 地域活性化プロジェクト

目 的：新たな文化の創造・発信、賑わいづくり

具体策：各種イベントなどの実施、まちの情報発信等

### ③ まちづくりプロジェクト

目 的：健全で魅力あふれるまちづくり（ハード整備の側面よりアプローチ）

具体策：社会インフラの整備、まちの景観向上、まちづくり計画の策定等

### ④ 喜兵衛プロジェクト（歌舞伎町タウン・マネージメント）<sup>7</sup>

目 的：

（1）違法風俗店排除後の空き室・空きビルに優良なテナントなど、新たなまちの活動の担い手を誘致する。

---

<sup>7</sup> 喜兵衛プロジェクトと歌舞伎町タウン・マネージメント

個別不動産に新たな担い手を誘致するというコンセプトで始まった喜兵衛プロジェクトであったが、繁華街・歌舞伎町という特殊な環境と、高額なテナント賃料が足枷となり、中々コンバージョンは進めることができなかった。このため、喜兵衛プロジェクトは、歌舞伎町の公共空間や公共施設を活用して、そこに新たな活動の担い手を誘致すること、また、歌舞伎町ルネッサンスの活動の趣旨に賛同するNPOやボランティアをはじめとする活動主体をコーディネートするためのプロジェクトとなった。そして、2008年（平成20年）には、このプロジェクトは地元・事業者を中心に構成される「歌舞伎町タウン・マネージメント」として組織化され、現在、歌舞伎町ルネッサンスの各プロジェクトの実働部隊として活動している。（行政資料をもと筆者作成）

(2) 他3プロジェクトの総合調整役として活動する。

歌舞伎町ルネッサンスでは、現在もこの4つのプロジェクトにより、繁華街のまちづくり推進している。

この取り組みの目指すところは、クリーン作戦プロジェクトにより、犯罪インフラを除去し、環境美化を進め、このまちのイメージをマイナスからゼロに戻し、その一方で、地域活性化プロジェクトの賑わいづくり、まちづくりプロジェクトの快適な都市空間の創造により、プラスのメッセージを発信して、歌舞伎町を「誰もが安心してたのしめるまちへと再生」し、「エンターテインメントシティ・歌舞伎町」を実現するというものである。<sup>8</sup>

## 2 歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクト

### 2. 1 環境が大きく変化した歌舞伎町と地域活性化プロジェクト

平成17年にスタートした歌舞伎町ルネッサンスは、今年で7年目を迎える。4つのプロジェクトを中心に、新宿区、歌舞伎町タウン・マネジメント、地元の町会や歌舞伎町商店街振興組合、警察・消防などの関係行政機関が官民一体となり、これまでに一定の効果を上げてきているものの、まちの環境が変化する中で、各プロジェクトにもそれぞれ新たな課題が生じている。

特に、今回筆者が取り上げる、地域活性化プロジェクトの活動は、歌舞伎町ルネッサンスが誕生した当初と比べ、大きく舵を切らなければならない状況にある。歌舞伎町ルネッサンスの取り組みを始めた当初、歌舞伎町には、まちのシンボル・新宿コマ劇場があった。そして、その周辺には15もの映画館<sup>9</sup>があり、この境界の賑わいも、まだ十分にあった。このため、地域活性化プロジェクトは、ここに集まる多くの来街者に対して、既存の施設での興業と関連させたイベントを実施し、また、これら施設と公共空間を連携させるなどして、目指す「新たな文化の創造・発信、賑わいづくり」を進めてきた。しかし、現在、まちの大きな集客機能を担っていた新宿コマ劇場は閉館し、映画館は4スクリーンを残すのみとなった。このため、平成20年末を境に、まちの状況は大きく変わってしまった。結果、これまで地域活性化プロジェクトで実施してきたような取り組みはできなくなっている。<sup>10</sup>

このように、歌舞伎町ルネッサンスの地域活性化プロジェクトは、まちの現状を

<sup>8</sup> 新宿区区长室特命プロジェクト推進課（2010年改訂）『歌舞伎町ルネッサンス』p.1～p.2

<sup>9</sup> 「歌舞伎町の映画館 新宿東亜興業チェーン閉館」『ripping yard』

<http://www.rippingyard.com/seed/1377/> ※映画館の数のみ参照

<sup>10</sup> 新宿区特命プロジェクト推進課「地域活性化プロジェクト実績一覧」2009年度～2011年度を参照

踏まえながら、目標実現のために、新たな取り組みを考えなければならない状況にある。

## 2. 2 健全な繁華街・歌舞伎町の誕生の歴史

歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトについて論ずる前に、まず、このプロジェクトのバックボーンにある歌舞伎町というまちの持つDNAについて、このまちの誕生の歴史から説明する必要がある。この節では、プロジェクトの背景にある、歌舞伎町というまちの誕生とそこで育まれてきた文化を説明する。

東京大空襲により、日本の首都東京は焼け野原となり、日本はこの戦争に敗戦した。現在、歌舞伎町のあるエリアも荒涼とした焼け野原となり、戦後の復興が進められることとなった。

この焼け野原となった歌舞伎町を民間の主導で再生しようとしたのが、当時の角筈一丁目北町会長の鈴木喜兵衛である。

鈴木喜兵衛は、全焼した当時のこのエリアをみて落胆することなく、戦時中に疎開していた福島で練り上げた「角筈復興計画」によるまちづくりに取り組む。

この計画は、地主、借地人、その他の被災者によって構成する、民間のまちづくり組織をつくり、市街地の再生を進めるというものであった。鈴木喜兵衛は、当時の住民に対して「商店や住宅地の土地使用を再生すべきである今、ここにあるものは自分のことなど考えているときではない」と説得して、まちが無秩序に開発されることがないように、その防止策でもある「復興計画趣意書」を作成し、復興協力会設置に奔走した。<sup>11</sup>

喜兵衛のこうした努力により、角筈の借地権は復興協力会に一任され、町会の全面積の約 3 分の 1 を所有していた地権者の峯島茂兵衛から土地を提供してもらうこととなった。喜兵衛は、その土地をならし、道路網を整備し、下水道、ガス、電気、電話などの社会インフラを整備しながら、この区域に「広場を中心として芸能施設を集める。そして、新東京の最健全な家庭センター」を立ち上げる構想をもっていた。これは、当時、既に繁華街として発展していた銀座や浅草の良さを併せ持つ「道義的繁華街」としてまちを繁栄させようというものであった。<sup>12</sup> こうした鈴木喜兵衛の壮大な構想に対し、初代東京都知事の安井誠一郎は「歌伎町の都市建設事業は首都復興事業中、最も関心をもったひとつであった」<sup>13</sup>と述べている。また、東京都建設局長であった石川栄耀は「自分たちが東京の復興計画に苦しんでいる最

<sup>11</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p26

<sup>12</sup> 同 上

<sup>13</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p26 下段 23 行目～25 行目を引用

中に、実に珍しい『計画』が『出願』された。それは、新宿角筈の第五高女跡を中心に区画整理して集団的な建設計画をやろうというものである。復興計画が、なかなかうまくいかないのクサッテいる我々にとってはまさに乾天の夕立ちであった」と述べ、鈴木喜兵衛の斬新かつ大胆な計画を高く評価したという。<sup>14</sup>

このように、東京都知事、また当時の建設局長が、鈴木喜兵衛の打ち出した構想を高く評価した背景には、1946 年に公布し、戦後の復興を目指した特別都市計画法による行政主導の復興事業が、計画通りに進まなかった状況の中、民間主導のまちづくりが地元の町会長を中心に提出され、その内容も模範的な繁華街復興と認識された点にあった。<sup>15</sup>

この鈴木喜兵衛の構想には、歌舞伎劇場・菊座の誘致があり、これを中心に、小山内薫記念自由劇場等の大劇場 2 館、映画館 4 館、子ども劇場 1 館に、大総合娯楽館、ダンスホール、大宴会場、ホテルを建設し、周辺に 1 区画 30 坪の商店街（旧借地権者に均等に配分する）を配置するというものであった。<sup>16</sup>

この計画は、多くのマスコミにも取り上げられ、大変評価された。また、この復興計画によって誕生する街に、最も似つかわし町名は何かという呼称にまで、鈴木喜兵衛はこだわりっており、先述の東京都建設局長 石川栄耀（東京の戦災復興都市計画に着手し区画整理の指導にあたっていた）に新町名に相談すると「歌舞伎劇場建設を目的とするのであれば、『歌舞伎町』がよいのではないか」との提案をうけた。これに対して、鈴木喜兵衛は「歌舞伎町は語呂も良し、感じも良し、この町の建設目的にもピッタリである」と賛同し、昭和 22 年 1 月 6 日付で、町名変更の手続きを行った。<sup>17</sup> こうして、1948 年 4 月 1 日から角筈 1 丁目と東大久保の 3 丁目の一部を統合され「歌舞伎町」が生まれた。

しかし、順風満帆にみえたまちづくりであったが、計画案の中心であった歌舞伎劇場の建設だけは計画通りに進まなかった。これは、1946 年 5 月に、戦後の経済不況から不要不急の消費娯楽的な建築物の建設を抑制する「臨時建築等制限規制」が公布されたためである。これにより、一部の建物を除き大半の建設は中止あるいは停止となり、歌舞伎劇場の建設も当然この中に含まれていた。<sup>18</sup>

このように鈴木喜兵衛の復興計画の中心であった歌舞伎劇場建設は中止となった、しかし、ここで中断するわけにはいかないという鈴木喜兵衛と住民の思いにより、歌舞伎町のまちづくりは歩みを止めることなく進められた。そして、1950 年にこのまちづくりは大きな転換期を迎える。この年の 4 月から 6 月までの 3 か月間にわたり、震災復興を記念する東京産業文化博覧会が歌舞伎町を中心に開催される

<sup>14</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p27 上段 2 行目～8 行目を引用

<sup>15</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p27

<sup>16</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p27 下段 18 行目～p28 上段 1 行目を引用

<sup>17</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p29 上段 5 行目～p29 上段 12 行目を引用

<sup>18</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p32

こととなった。この博覧会は、戦後、東京で最初に開催された博覧会である。歌舞伎町はこの博覧会の第一会場となり、当時、多くの人が東京に集まりだしていた時代ということもあり、大きな賑わいが期待されたが、興行的には決して成功とはいえない結果であった。しかし、この博覧会を契機に、現在のシネシティ広場（旧新宿コマ劇場跡地前）を中心に様々な施設が建設され、現代的な繁華街としての歌舞伎町が形成されることとなる。シネシティ広場の周辺は、この場所の名前の由来のとおり、多くの映画館が建てられた。この映画館の周辺には、多くの喫茶店が開店し、待ち合わせの場所、憩いの場所と化した。また、喫茶店の増加とともに、その種類は多様化し、歌声喫茶や名曲喫茶（スカラ座が有名）、ジャズ喫茶なども開店し、若者を中心に大変な賑わいをみせた。

そして、1956 年には、歌舞伎町の象徴である「新宿コマ劇場」が建造される。新宿コマ劇場は、当初、歌舞伎劇場が建設される予定であった第五高女跡地に造られ、座席数 2000 を超える都内最大級の劇場であった。コマ劇場とシネシティ広場を周辺の娯楽施設の登場により、この後歌舞伎町は日本を代表する繁華街へと成長していく。<sup>19</sup>

## 2. 3 歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトとは

このように、歌舞伎町は、戦災復興計画の中から生まれ、大衆文化の一大拠点となった。こうした、歌舞伎町誕生当初の理念であった「大衆文化」を取り込み、今の歌舞伎町にない「新たな文化の創造・発信と賑わいづくり」を進めるという考えが、歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトのベースにある。

先述の通り、歌舞伎町には、「風俗のまち」「怖い」「汚い」といったマイナスイメージが、依然強く残っている。地域活性化プロジェクトは、こうしたイメージを払しょくし、この町のもつDNAを活かしながら、現在の歌舞伎町に「新たな文化」、正確には「新たな大衆文化」を「創造」し、これを「発信」することで、これまで歌舞伎町に来なかったような方々の「新たな賑わい」を創り出そうというものである。

歌舞伎町には、これまでの時代の流れの中で形成されてきた文化がある。そしてここから生まれる町のイメージがあり、そこへ集まる賑わいがある。これは、新宿コマ劇場や映画館が閉館する中でさらに変わりつつある。しかし、こうした現在の歌舞伎町がもつ文化やイメージ、そして賑わいだけでは、歌舞伎町の悪いイメージは払しょくされることなく、このまちの文化を創っていく新たな担い手の登場も期待できない。最悪の場合、悪いイメージばかりが目立ち、歌舞伎町は荒廃の一途を

---

<sup>19</sup> 歌舞伎町商店街振興組合（2004）『歌舞伎町の 60 年』p32

辿ることも考えられる。これまでの歌舞伎町の文化を活かしつつ、歌舞伎町ルネサンス・地域活性化プロジェクトを推進することによって、現在の歌舞伎町のもつ文化に、新しい風を吹き込むことが、持続的な都市運営を可能とすると考える。

新宿区は、ショッピング、飲食、映画や音楽など様々なレジャー産業によって支えられている。そして、こうしたレジャー産業が、このまちに新たに進出し、継続的に定着することは、自治体の税収増にもつながるだけでなく、新たな雇用を創造する。そして、結果的にはこうした経済効果が、区民の福祉向上につながる。歌舞伎町の「新たな」地域活性化は、こうした点も踏まえながら、防犯や環境美化の施策とともに実施していかなければならない取り組みである。

しかし、歌舞伎町ルネサンス・地域活性化プロジェクト事業だけで、目指す「新たな文化の創造・発信と賑わいづくり」を実現することは難しい。歌舞伎町ルネサンス・地域活性化プロジェクトが目指すところは、現在の歌舞伎町にない、「大衆文化の創造・発信と賑わい」を官民一体となり推進しながら、まちに新たな風を吹き込んで、新たな担い手と呼び込み、このまちにあるマイナス文化やマイナスイメージを変えていくことである。

### 3 歌舞伎町ルネサンス・地域活性化プロジェクトが直面する課題

4つのプロジェクトを総合的に展開してきた歌舞伎町ルネサンスにあって、本稿の研究対象としている地域活性化プロジェクトには、大きな二つの課題がある。

平成20年末、歌舞伎町のシンボルであった新宿コマ劇場が、施設の老朽化と経営難を理由に閉館した。また、新宿コマ劇場とともにこのまちの賑わいを支えてきたシネシティ広場周辺の映画館も、レンタル事業の進展やシネマコンプレックスの乱立により、経営難に陥り相次いで閉館した。こうした状況の中、歌舞伎町ルネサンス・地域活性化プロジェクトは大きなターニングポイントを迎えている。これまで、地域活性化プロジェクトが実施するイベントは、こうした娯楽施設と連携したもの、また「新たな賑わいづくり」とはいえ、これらの施設に集まる客を頼りにしたものが多かった。このプロジェクトで掲げる「公共の空間・施設の活用」は、こうした娯楽施設に集まる客がいてこそ、その価値があったわけである。つまり、この界限に集まる来街者が多ければ多いほど、そこにある公共空間や公共施設のコマーシャル効果、ディスプレイ効果は高くなり、ルネサンスが目指す新たな文化の創造・発信と賑わいづくりに結び付けやすくなる。しかし、こうした施設が閉館した今、地域活性化プロジェクトでは、このような状況の中でも集客できるコンテンツを選び、担い手の誘致と集客が求められている。

また、こうした娯楽施設の閉館により、来街者がまち中を回遊する流れが小さく

なってしまう、まち全体からの賑わいをつくるのが困難になっている。結果、まちへの経済波及効果も乏しいものとなっている。このため、歌舞伎町で活動する新たな担い手が参入しにくくなり、この事業の目指す「新たな大衆文化の創造・発信と賑わいづくり」が停滞してしまう可能性も出てきている。

今回のレポートでは、これらの課題のうち、とりわけ二つ目の「来街者の回遊性を高める」ための方策について取り上げる。

この章では、まず、地域の賑わいづくりにおいて、最初に、地域活性化プロジェクトが直面している課題を明確にし、次に来街者が街中を回遊することの重要性を整理する。そして、次章でこれを解決するための取り組み（新たなイベント）の狙いと結果を検証し、このプロジェクトの今後の展開について記述する。

### 3. 1 新宿コマ劇場と映画館の閉館から生じた課題

平成 20 年 12 月 31 日、演歌ファンを中心に多くの人に惜しまれ、新宿コマ劇場が閉館した。先述のとおり新宿コマ劇場は、1956 年のオープン以来、北島三郎や美空ひばりなど、大物演歌歌手のコンサートや舞台を中心に、多くの芸能公演が行われ、正に日本の芸能界を牽引してきた殿堂であった。

しかし、ピーク時年間 100 万人を超えた動員力の落ち込みは激しく、赤字経営となっていた。また、建物そのものの老朽化も目立ち、興行成績の見通しも不透明であったことから、平成 20 年末の閉館が決定された。コマ劇場内には「シアターアプル」などの小劇場や映画館もあったが、コマ劇場の閉館にともない、これらの営業も終了することとなった。平成 20 年末歌舞伎町はまちのシンボルであり、来街者を強く誘引していた最大の娯楽施設を失った。<sup>20</sup>

そして、この新宿コマ劇場の閉館後、歌舞伎町シネシティ広場周辺にあった映画館が立て続けに閉館する。これは、新宿三丁目に新たに開館したシネマコンプレックス、バルト 9（2007 年 2 月 9 日開館）や新宿ピカデリー（2008 年 7 月 19 日開館）の影響で、歌舞伎町地区の映画館への客足が激減したためであるといわれている。現在、歌舞伎町に 15 館あった映画館は、東急レクリエーションが経営する 4 館を残すのみとなっている。

このように、新宿コマ劇場と映画館という、これまで歌舞伎町の大規模な集客を担ってきた施設がなくなったことは、まちに大きな変化をもたらすことになる。歌舞伎町は、こうした大規模な集客施設の周辺に、多くの飲食店群とカラオケやゲームセンター、ライブハウスなどの中小規模の娯楽施設があり、来街者は、コマ劇場や映画館での上演終了後、または開演前にこれら店舗や施設に立ち寄っていたという。つまり、歌舞伎町の中での来街者の回遊と消費活動が成立していたわけである。

---

<sup>20</sup> 「新宿コマ劇場の歴史」『株式会社コマ・スタジアム HP』<http://www.koma-sta.co.jp/history/index.html>

しかし、大規模集客施設の閉館後、2008 年のリーマンショックによる不況の煽りもあり、これまで歌舞伎町で営業してきた多くの飲食店や中小規模の娯楽施設への客は減少し、経営者は大きなダメージを受けることとなった。特に個人で飲食店を経営する者は、テナント料が払えず店を閉めるケースが目立ったという。

このことは、歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトにも大きな影響を与えることとなる。コマ劇場や多くの映画館が営業していた当時、この界隈の来街者数は最盛期と比較し減少していたとはいえ、他の繁華街と比べても遜色のない程度あり、一定程度のコマーシャル効果があったため、シネシティ広場でイベントを実施する事業主体もそれなりに存在していた。また、周辺映画館と連携したイベントなども実施されており、地域活性化プロジェクトは、まちの集客施設が創り出す賑わいづくりと並行して、また時には連携して、新しい大衆文化の創造・発信、賑わいづくりを進めればよかった。

しかし、コマ劇場や多くの映画館が相次いで閉館し、歌舞伎町の中にあった来街者の回遊が大幅に減少、または停滞してしまった現在、地域活性化プロジェクトには、歌舞伎町の「来街者数の増」と「来街者の回遊性を高める」取り組みが求められるようになった。

### 3. 2 歌舞伎町ルネッサンスの地域活性化プロジェクトの課題 ～大久保公園テン劇場からみえた課題～

歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトでは、平成 19 年から平成 22 年までの 4 年間、6 月下旬から 8 月末までの期間「大久保公園テント劇場」を開催してきた。

このイベントは、区立大久保公園という公共施設を活用し、イベントを開催することで、① 歌舞伎町にこれまで来たことのないような来街者を呼び込み（新たな賑わいづくり）、② こうしたイベントの開催により、小中規模の演劇を中心としたエンターテイメントをこのまちに新たに定着させ（新たな大衆文化の創造・発信）、まちのイメージを向上させることができるか、また、そこから③ 経済波及効果を作り出すことができるか等を検証するために、社会実験として実施してきたものである。

しかし、この社会実験では、次のような効果があることが判明した一方で、いくつかの課題が明らかになった。

#### ■ 大久保公園テント劇場の効果と課題 <sup>21</sup>

<sup>21</sup> 新宿区特命プロジェクト推進課「大久保公園イベント活用業務支援委託 調査報告書」より引用

#### 【大久保公園テント劇場の効果】

- ① このまちに若年層から高齢層まで幅広く新たな来街者を呼び込むことができ、一定の賑わいを創出することができた。
- ② 演劇や音楽を中心としたイベントの実施により、歌舞伎町のイメージアップに一定の効果をあげた。

#### 【大久保公園テント劇場から見えた課題】

- ① 現在の事業構造では、インパクトのある劇団や事業主体等の誘致が困難であり、これ以上の集客を得ることは難しい。
- ② 夏の2か月間の単発的かつ短時間の公演であり、歌舞伎町全体の年間を通した集客力が小さい。
- ③ スポット的な事業展開であるため、来場者の大半が新宿駅や西武新宿駅と会場を行き来するだけであり、歌舞伎町の中を回遊することなく飲食店等への経済波及効果は小さかった。

このように大久保公園テント劇場は、歌舞伎町のまちに一定の効果を与えることができたものの、新たな課題も判明した。①については物理的な問題からこれ以上の改善を図ることはできない。②については、開催時間を工夫しながら、年間を通して小規模なものも含めたイベントを多数開催していくことで改善することが可能である。しかし、③のスポット的な事業展開により、来街者の回遊性が生まれず、その結果、まちへの経済波及効果が小さく、また、まち全体からの賑わいづくりができていないという結果は、これまで取り組んできた各種イベントのフレームを見直す必要のある大きな課題である。

### 3. 3 回遊性の高い賑いづくりの必要性～新宿区大久保エリアの事例から～

歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトの目指すまちづくりは「新たな大衆文化を創造・発信し、新たな賑わいをつくる」ことであり、その結果、まちのイメージ、まちのブランドを大きく変換・向上させることにある。そのためには、まち全体を使い、まち全体にこのプロジェクトが目指す内容を波及させていくことが必要である。これを実現するには、来街者が街中を回遊することが必要であり、これがなくてはこの目標の実現は難しい。

この節では、こうした来街者の回遊性により、地域が活性化し、まちのイメージやブランド力が高まり、大きな経済波及効果を生んでいる、新宿区大久保の事例を紹介しながら、その必要性和効果を説明する。

新宿区大久保は、現在、韓流ドラマやK-POPブームの波に乗り、完全にまちの様相が変化した地域である。土日はもちろん、平日も女性を中心に大変な賑わいをみせている。最近は多くの修学旅行生が訪れるようになったという。このまちの興味深いところは、かつての原宿竹下通りのように、若い年齢層だけでなく、50代を中心とした中高年にも、大変人気があるということである。いわば、原宿竹下通りと、巢鴨の地蔵通り商店街を足して二で割ったような状況にある。

大久保エリアの賑わいは、大久保通り沿いの商店街から始まり、これが、徐々に歌舞伎町方面へ南下し、現在、職安通りにまで達している。元々は、このエリアのメインストリートである大久保通りに面した商店街を中心に、そこから、それぞれの路地を20mくらい入ったところに飲食店が点在している程度の普通の商店街であった。さらに、この路地を先に進むと住宅、そして、ラブホテル等が点在するエリアであった。この大久保通りと職安通りに挟まれたエリアは住宅街ではあるが、今から15年くらい前は、昼間にもかかわらず、国籍不明の売春婦が立ち並び（通称 国際通りなどと呼ばれていた）、職安通りにほど近い区立公園には、数人のホームレスが屯しており、とても環境のよい場所とは言えない状況にあった。

しかし、韓流ドラマにはじまり、K-POPが流行し出した2003年以降、このエリアに少しずつ変化が生じた。大久保エリアに、韓流スターやK-POPアイドルのグッズやCD、DVDを置く店が増え、これと比例するように韓国料理を楽しむ飲食店も増加した。現在、大久保通りと職安通りを結ぶ路地には奥まで店が進出し、連日、観光客で一杯になっている。

また、大久保通りの賑わいが職安通りの方向へ徐々に南下するにしたがい、職安通りにも変化が生じた。職安通りに点在していた韓国系の飲食店が確実に増えだし、ライブハウスやカラオケ、グッズ販売店、美容院が多数開店した。これによって、大久保通りと職安通りを繋ぐ路地を行き来する人が増え、回遊性の高いまちができた。

このエリアの変化、特に大久保通りと職安通りを結ぶ路地の変化については、鈴木妄想著（2011）「新大久保とK-POP」（マイコミ新書）の中でも、次のように紹介されている。（以下引用）

haruenc氏は、CD/グッズショップで見かけた光景を話してくれた。今の10代の女の子にとって、新大久保は本当に観光地の一つのように捉えられていて、最近多いのは、新大久保に来ている修学旅行生なんですよ。グッズショップに来て、「〇〇のグッズあったけど買っておく？」とか地元で電話しているんです。

これはまるで80年代の原宿、竹下通りのタレントショップのようである。実際、新大久保研究者の中には、大久保通りと職安通りを結ぶ路地を「大久保の竹下通り」

と呼ぶ人々もいる。いわゆる新大久保の原宿化である。<sup>22</sup>

筆者も大久保通りと職安通りを繋ぐ路地を最近よく歩くが、平日の昼間でも本当に多くの人が歩いている。また、K-POPアイドルの参加するイベントに会場していた、ファン数名の話からも、大久保通りと職安通りの間を行ったり来たりして楽しんでいることが判明した。<sup>23</sup>

このように、この2つの通りに挟まれたエリアを多くの観光客が行き来するようになると、点在していたラブホテルは、洒落たマンションに建て替えられ、ホームレスが屯していた区立公園は、来街者の休憩スポットとなった。現在は、国籍不明の売春婦もホームレスを見かけることはなく、大久保エリアは、安全で楽しいまちに生まれ変わっている。

この新宿区大久保エリアで起きた現象は、まさに来街者の回遊によって、まちが大きく変化したよい事例といつてよい。昼間でも歩きたくないようなこのエリアを、現在10～20代の若い女性や50代の元気な中高年女性が歩き回っている。そして、最近では「大久保エリアに住みたい」という若い女性が増えているという。ラブホテルが洒落たマンションに建て替えられるのも理解できる。また、詳細なデータはないが、韓流・K-POPブームによる経済波及効果は相当大きいものと考えられる。2011年10月19日の読売新聞によると、JR東日本が発表した9月の新大久保駅の営業収入は、前年比で約38%増であったという<sup>24</sup>。これは、あくまでも新大久保駅に限った事業収入であり、推測の域を出ないが、大久保エリアにおける経済波及効果も同程度以上のものが想定されるといっても過言ではないだろうか。

この新宿区大久保の事例を見てもわかるように、回遊性の高いまちづくりを進めることは、単純に観光客による経済波及効果を狙えるだけでなく、それまでのまちの持っていたマイナスの要素までを消去することができ、そして、これがまちのイメージやブランドを向上させ、まちの構造を変えてしまう。

まちのイメージやブランドを大きく変化・向上させるような、まちづくりを進める場合、まちの将来を担う、また、そのまちに相応しいコンテンツを厳選し（大久保の場合は、韓流ブームを受け入れる下地が既にあった）、人の回遊性を高めるような仕組みづくりが非常に重要であることが、この事例から学ぶことができる。

#### 4 来街者の回遊性を高め、まち全体から賑わいをつくる取り組み

<sup>22</sup> 鈴木妄想（2011）「新大久保と K-POP」マイコミ出版 p 22

<sup>23</sup> K-POP アイドルが参加する、歌舞伎町ルネッサンスのイベント来場者数名に対し、非公式に聞き取りを行った内容

<sup>24</sup> 「韓流人気、山手線新大久保駅の営業収入4割増」『読売新聞』2010.10.19 朝刊

先述のとおり、新宿コマ劇場や映画館の閉館により歌舞伎町の中に存在していた来街者の回遊が小さくなったということ、また、大久保公園テント劇場の検証結果から、これまで歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトで実施してきたイベントは、その殆どが「スポット的に展開してきたものであり、来街者がまち中を回遊することなくまちを離れ、結果、地域への経済波及効果は小さく、また、まち全体での賑わいづくりに繋がっていない」ということが判明した。

このため、今後の地域活性化プロジェクトでは、年に1度実施するランドマーク・イベントを中心に、来街者の回遊性を高め、まち全体からの賑わいづくりを進めて、まちのイメージアップ、経済波及効果等を生むような仕組みを構築していくことが求められている。

#### 4. 1 「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」の狙い

こうした課題に対し、これまでの経験・実績等を踏まえ、新たな取り組みとして実施するのが、「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」（平成23年10月15日から23日までの9日間開催）である。

このイベントは、新宿駅東口から歌舞伎町までにある広場や通りなどに学生が創作したモニュメントや像、またデジタル映像などを展示・放映するというアートイベントである。

このイベントは、大久保公園テント劇場の反省点を踏まえ、①5つの会場を同時一体的に活用し、②朝の11時から夜の8時まで10時間イベントを開催すること、そして、③様々なアートイベントを取り入れることにより、偏った客層のみを対象とせず、多くの方が楽しめるコンテンツを企画した。さらに、④歌舞伎町の中だけに留まらず、新宿駅東口に近い通りも会場としており、日本一の乗降客数を誇る「新宿駅周辺からの来場者を呼び込む動線づくり」に取り組んだことは、これまでの地域活性化プロジェクトにない新たな試みである。つまり、「空間」、「時間」、「内容」といったそれぞれの側面で幅を持たせた事業展開をしており、これにより、子供から大人までが、朝から夕方まで、新宿駅東口から歌舞伎町までのまち中を回遊して楽しむことができ、まち全体から、これまで以上の賑わいを期待することができるというものである。

【解題解決に向けた新たな事業展開のイメージ】<sup>25</sup>



【「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」のイベント概要】<sup>26</sup>

- ① キックオフ・フォーラム (10月15日(土) 本庁舎5階大会議室)
- ② 特別プロジェクト (10月15日(土)・16日(日))
  - (1) ライティングアート in 新宿 (シネシティ広場)
  - (2) サウンディングアート in 新宿 (モア4番街、セントラルロード)
- ③ 文化夜塾 (10月15日(土) 歌舞伎町及びゴールデン街の5店舗催)
- ④ アート・コンペティション (10月15日(土)～23日(日))
 

【空間デザイン部門】新宿モア4番街、セントラルロード

【デジタル映像部門】シネシティ広場
- ⑤ 学生サウンドライブ (10月17日(月)～23日(日) シネシティ広場)
- ⑥ アートバザール (10月21日(金)～23日(日) 大久保公園)
- ⑦ デザインTシャツ展示 (10月15日(土)～23日(日) 旧コマ劇場仮囲い・ハイジア)
- ⑧ デザインTオークション (10月22日(土)、23日(日) シネシティ広場)
- ⑨ 特別協賛会社ステージ (10月22日(土)、23日(日) シネシティ広場)
- ⑨ 椿山荘 三重塔特別展 (10月15日(土)～23日(日) ハイジア)

<sup>25</sup> 「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」キックオフ・フォーラム資料(筆者作成)

<sup>26</sup> 新宿区特命プロジェクト推進課「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」ガイドブック

#### 4. 2 学生クリエイターズ・フェスタへの期待

新宿駅東口を含めた5つの会場を同時一体的に活用し、新宿駅東口から歌舞伎町への来街者の動線づくりと回遊性を高めることで、まち全体からの賑わいづくりに挑戦する「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」には、このほか期待できる効果がある。

まず、若者・学生のまち新宿を再現することである。このイベントは、新宿区の特性のひとつである大学・各種専門学校の集積を活かし「若い力」によりまちづくりを進めるという点に特徴がある。かつて新宿は、学生や若者のまちであり、まちには若いエネルギーが溢れていた。しかし、現在、多様化する社会の中で、新宿区だけが人の集まる街ではなくなり、特に歌舞伎町からの若者の流出は激しい。このイベントの開催を通して、学生や若者をまちに呼び戻すことでできればと考える。そして、ここから新しい若者文化の潮流が生まれ、新宿に新しい賑わいがうまれることを期待したい。

次に、このイベントには、「より多くの民間団体を取り込んだ事業展開をすべきである」との外部評価委員会の指摘を踏まえ、新宿で様々な事業を展開する民間企業に協賛を頂いているという点である。これまでは、歌舞伎町内にある民間企業を中心に協賛をいただき、イベントを開催してきたが、この「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」には、JR東日本、小田急電鉄、NTT東日本、住友不動産、ロッテなど新宿に本社を置く、日本を代表する民間企業から協賛金をいただき、これまでにない規模での官民一体となった取り組みとなっている。

このイベントは、これまでの歌舞伎町ルネサンス・地域活性化プロジェクトのイベントが抱えていた課題であるスポット的な事業展開を解消し、また、外部評価委員会にも指摘された、多くの民間団体や活動主体と連携した取り組みとなっており、今後の地域活性化プロジェクトの事業展開の礎になることが期待されている。

#### 4. 3 「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」の効果とこれからの賑わいづくり

「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」は、10月23日（日）に大きな事故等もなく無事に終了することができた。繁華街・歌舞伎町を中心に、学生が創作したアート作品の数々が展示されるということで話題性も高く、多くのマスコミに取り上げられた。来街者数は延べ25万人に達し、初回としては及第点に達したものとする。

ここでは、このイベント実施の最大の目的である「新宿駅東口から歌舞伎町まで

の動線づくり」と「人の回遊性を高めるイベントの実施」についての調査結果を紹介し、この側面でのイベントの効果を検証する。

【新たな取り組みによる回遊性向上の測定結果】<sup>27</sup>

(回遊性向上の測定)

目 的：イベント来街者の回遊性を調査する

調査日：平成 23 年 10 月 20 日（木）、21 日（金）、22 日（土）

調査場所：歌舞伎町セントラルロード、新宿モア 4 番街

調査時間：①11:30～12:30、②14:30～15:30、③17:30～18:30

調査内容：本イベントの来街者であることを確認し、これから行く会場、既に行った会場を確認する。

(測定結果)

■ 標本数  $n = 264$

(来街者の回遊性について)

■ 複数の会場を回ると答えた来街者の数 171

■ 回遊率  $171/264 = 0.6477 \cdots$  約 65%

(駅東口から歌舞伎町までの動線づくりについて)

■ 新宿モア 4 番街と歌舞伎町の会場（セントラルロード、シネシティ広場、ハイジア、大久保公園）の両方に行った来街者の数 138

※歌舞伎町には 4 会場あるが、いずれかに足を運べばカウントする。

■ 新宿駅東口と歌舞伎町の両会場に行った来街者の割合

$138/264 = 0.522 \cdots$  約 52%

このように、本イベントの会場である、歌舞伎町セントラルロード、新宿モア 4 番街の路上で直接実施したアンケート調査の結果から、このイベントの目指した「来街者の回遊性をつくる」という取り組みに一定の効果があったことが判明した。（イベント来場者の約 65%が複数の会場間を行き来していることが判明した）

また、来街者の約 52%が、靖国通りを挟んだ駅東口エリアと渡った歌舞伎町の各会場へと足を運んでいたことも判明した。

このアンケート調査の結果から、「来街者の回遊性を高める」、「新宿駅東口からの来街者の動線をつくる」という、今回のイベントの狙いは、一定の効果を果たすことができたといえる。

<sup>27</sup> 新宿区特命プロジェクト推進課がイベント期間中に実施した来場者行動調査の結果をもとに筆者作成

## さいごに

まちの賑わいをつくるには、まちの変化を読みながら、戦略をもって、様々な取り組みを展開していくことが求められる。

歌舞伎町ルネッサンスでは、当初から、広場や公園、通り等公共の空間・施設を活用した様々なイベントなどを実施してきた。当時の地域活性化プロジェクトは、歌舞伎町の文化の創造・発信、賑わいづくりを一手に担っていたコマ劇場や映画館等と並行し、また、時には連携しながら、歌舞伎町ルネッサンスの目指すまちづくりを進めていた。これは、当時、新宿コマ劇場や周辺の映画館に集まった来街者が、公演前後に周辺の飲食店やゲームセンターやカラオケ店などに行くという流れがあり、このまちの中に来街者の回遊が、一定程度、存在していたからである。しかし、こうした歌舞伎町の大きな娯楽施設がなくなった現在、来街者の回遊性は小さくなり、地域活性化プロジェクトのイベント自体が来街者を誘引し、かつ人の回遊を作り出す役割を担うことが求められている。つまり、これまでのようなスポット的なイベント展開だけでは、不十分であり、面的な展開による集客性の高いイベントを実施していくことが求められている。

今回、地元商店街振興組合、民間企業、そして新宿が一体となり開催した「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」は、このレポートで取り上げた、歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトの課題のひとつである来街者の回遊性を高め、また、新宿駅東口からの歌舞伎町への動線をつくるという目的に、一定の成果をあげることができた。回遊性の高い賑わいづくりは、来街者の滞在時間を長くし、まち全体から賑わいをつくり、経済的な波及効果も期待できる。今回の結果を踏まえ、今後、歌舞伎町ルネッサンス・地域活性化プロジェクトでは、より集客性の高いコンテンツを選ぶことはもちろん、新宿駅東口周辺エリアと連携し、歌舞伎町までの動線をつくりながら、できる限り複数会場を設け、人の流れをつくるイベントを実施していくことが必要であると考える。

### 【参考文献】

(図書等)

- ・歌舞伎町商店街振興組合（2009）「歌舞伎町の60年」
- ・鈴木妄想（2011）「新大久保と歌舞伎町」マイコミ出版
- ・大久保公園イベント活用業務支援委託 調査報告書（2010）
- ・新宿区区長室特命プロジェクト推進課（2010年改訂）「歌舞伎町ルネッサンス」p.1－p.2
- ・新宿区特命プロジェクト推進課「大久保公園イベント活用業務支援委託 調査報告書」（2010年）
- ・「韓流人気、山手線新大久保駅の営業収入4割増」『読売新聞』2010.10.19 朝刊

- ・「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」(2011 年) キックオフ・フォーラム資料
- ・新宿区特命プロジェクト推進課「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」ガイドブック

(H P)

- ・「2001 年 9 月 1 日、新宿歌舞伎町ビル火災 44 人死亡」『防災システム研究所』  
<http://www.bo-sai.co.jp/sinjurykukasai.htm>
- ・「新宿ビル火災の教訓」『防災システム研究所』  
<http://www.bo-sai.co.jp/sinjurykukasai1.htm>
- ・「消防法施行規則の一部を改正する政令概要」『消防庁』  
<http://www.fdma.go.jp/html/new/021018gaiyo.htm>
- ・「歌舞伎町防火で対策本部 雑居ビルなど一斉検査」『47NEWS』  
<http://www.47news.jp/CN/200606/CN2006062201003905.html>
- ・「歌舞伎町の映画館 新宿東亜興業チェーン閉館」『ripping yard』  
<http://www.rippingyard.com/seed/1377/> ※映画館の数のみ参照
- ・「新宿コマ劇場の歴史」『株式会社コマ・スタジアム HP』  
<http://www.koma-sta.co.jp/history/index.html>

(参 照)

- ・鈴木喜兵衛 (1955)「歌舞伎町」大我堂
- ・山口裕美 (2010)「観光アート」(光文社新書)
- ・山田 雄一、内田 純一、伊良皆 啓、太田 正隆 (2010)「観光まちづくりのマーケティング」(学芸出版社)